

IR/IE の教訓から学ぶ

1. 同僚との良好な協力関係の構築 – データやデータへのアクセス権が必要となるかもしれない！
2. 大学の各種プロセスを理解する（出願から卒業へ）
3. IT について知り親しむようになる（IR はデータへのアクセス権や大学のデータシステムをコントロールする場合がある）
4. 大学の経営陣が IR についてどのように考えているのか知るようになる
5. 大学のデータシステム—その長所と短所を学ぶ
6. 提出しなければならないレポートのスケジュールを知り計画を立てる（IPEDS や大学内での調査など）

議論となる項目

- 1 積極的な関係の構築
 - 1.1 刺激的で信頼される立場をつかむ。
 - 1.2 データ提供、調査、統計解析などを使いクライアントをより自発的に支援しよう。あなたに恩義を感じる人を増やし、適任者（頼られる人）になろう（正確なデータの提供を通して）。
 - 1.3 IR の専門家として、高度な統計解析の技術や知識が必要となるかもしれない。
 - 1.4 あらゆるデータの管理人を知り（全ての利害関係者と会うよう計画し）、彼らがどのように IR と関わるのかを知ろう。仮に関わらなかったとしても、会う予定を入れる（もっといえば毎週実行しよう）。
- 2 大学のプロセスへの理解
 - 2.1 出願から卒業までの全ての過程を理解する。
 - 2.2 誰がどのようにデータベースに入力するのかを理解する。
 - 2.3 データとデータ管理方法とその理由について良く理解するために、コードブック（データの定義集）等を入手する。
 - 2.4 大学における様々なプロセスを理解することが、データやデータフィールドについて理解することを助ける。
 - 2.5 データ入力のために、コードブック（データ定義集）や入力のルールを決めておく。もしそのような物がなければ、策定に協力する。
- 3 経営陣/IT サポート
 - 3.1 経営陣からの支援が得られないかもしれないが、その場合は何故そうなったのか理由を学ぶ。
 - 3.2 IR が支援を行う経営陣を理解する—予算、レポート、意思決定など—政策形成

においてあなたの意見は理解され、オフィスの発展につながる。

- 3.3 IR オフィスは上級管理職への支援をどのように行っているのか (IR、アセスメント、戦略計画)。
 - 3.4 アクセス権や IT と IR の関わりについて理解する。
 - 3.5 IT 担当者と親しくなり、継続的かつ積極的に付き合うよう尽力する。そうすることはあなたの助けとなる。
- 4 大学のデータシステム
 - 4.1 出来るだけ早く大学のデータシステムの利点と限界を知るようになる。
 - 4.2 レポートに不備があった場合、しっかりと対処する。
 - 4.3 誰がデータにアクセスし、どのようにデータが入れられ、誰がデータの「お守り」をしているのかを学ぶ。
 - 4.4 データに関わる人達が定期的には合わない場合は、データの定義集を作る作業を開始しよう (もし持っていなければ)。
 - 5 レポートの予定表
 - 5.1 IPEDS へのデータ提供は通常、予定がしっかり組まれており、年々大きな変化があるわけではない。
 - 5.2 どういった予定が組まれているのかを知る (学内調査が持つ意味との対応を図る一過剰な調査であったとしても怒らない)。
 - 5.3 出来る限り作業を自動化する—このことはあなたの活動をよりよいものとし、キャンパス内の人々があなたの業務を正当に評価することにつながる。
 - 5.4 レポート作成に必要な人を知っておく。
 - 6 自身が存在するための最良の場所
 - 6.1 IR はやりがいがあり刺激的な活動となりうる。
 - 6.2 みんなが研究や統計の知識があるとは限らないので、積極的に手助けしよう (あなたのファンとなってくれる人が必要だということを思い出そう)。
 - 6.3 IR がとてもやりがいがあり、大学に貢献できる部署だということを周りにアピールしよう。それが周りの IR に対する深い理解に繋がる。
 - 6.4 高等教育に関する話題 (就職状況に関する新たな連邦政府への報告義務など) を理解できるようになろう。各種会合に参加し、積極的に関わろう。